

令和元年12月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時	令和元年12月23日(月) 午後1時30分		
場 所	市庁本館3階 議会第3委員会室		
出席者	教育長	伊藤	博章
	教育委員	武輪	節子
	教育委員	大庭	文武
	教育委員	築瀬	眞知雄
	教育委員	油川	育子
事務局出席職員	教育部長	石亀	純悦
	教育部次長兼教育総務課長	橋本	淳一
	教育部次長	小笠原	徹
	博物館長	古里	淳
	学校教育課長	中村	雅臣
	教育指導課長	西山	康巳
	社会教育課長	館合	裕之
	是川縄文館副館長	小保内	裕之
	総合教育センター所長	竹花	和人
	こども支援センター所長	大坂	吉弘
	図書館長	田茂	隆一
	教育総務課参事	尾崎	紀子
	西地区給食センター所長	川口	晃司

開 会

(伊藤教育長)

定刻となりましたので、令和元年12月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、武輪委員を指定します。

それでは、はじめに私から、主な会議・行事等について説明いたします。

主な会議・行事等

(伊藤教育長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、ご質問などありましたらお願いします。

[質疑なし]

本日は議案の提出がありませんので、報告事項にまいります。

はじめに、「令和元年12月八戸市議会定例会一般質問について」は、事前に資料が配布されておりますので、委員の皆さんから質問がありましたらお願いします。

【令和元年12月八戸市議会定例会一般質問について】

(築瀬委員)

1 ページから 2 ページにかけての「難聴学級設置による支援体制について」の一般質問に対して感想を述べたいと思います。これまで、市内の難聴学級は小学校 2 校だけでしたが、地理的なバランスも考えられて新たに設置されることは、とても意義があることだと思います。私の記憶では、10 年ほど前に柏崎小学校に肢体不自由児特別支援学級が初めて設置され、画期的なことであったと感じました。今回の難聴学級の設置に向けては、施設の整備の問題を含め多くの課題があったかと思いますが、環境整備に向けた検討や、保護者、学校等の関係者との調整等、大変お疲れ様でした。

湊小学校への設置については、答弁内容と同様に、私も物的、人的にも適切な環境にある学校の一つであると思っております。おそらく南側の校舎を考えていると思うのですが、日当たりが良く、とても静かな環境であるという点、また、余裕教室が多く、騒音に対する教室配置、防音、吸音等の工事も行いやすい環境であるとともに、校長室や職員室も近いことから、連携や協力を緊密にとることができるのではないかと思います。

また、答弁内容には「既に校内支援体制が整えられている。」との記載がありますが、湊小学校は以前から「ことばの教室」という言語に関わる通級指導教室が設置されており、未就学児ことばの教室相談員も配置されていますので、より専門的に連携、協力が行えると感じています。設置にあたっては、様々な課題や困難もあると思いますが、特別支援教育の充実に向け期待しております。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。その他ございませんか。

(大庭委員)

二点ほどあります。築瀬委員と全く同じになりますが、これまでも学校教育においては、支援を要する子どもたちに対して、きめ細やかな対応をしていただいていると非常に感謝しております。今回の難聴学級の設置にあたっては、環境整備、特別支援教育への理解、さらには指導者への助言、研修等、いろいろな課題があるかと思えますけれども、他の支援と同様に、丁寧に取り組んでいただければありがたいと思っています。

もう一点ですけれども、15ページから17ページにわたりますが「YSアリーナの活用について」です。今年度2月までに小学校30校がYSアリーナを利用する予定になっているとのことに、私は意外だったなと思いました。まだまだと思っておりましたが、そこまで活用しているのかと感心いたしました。一方、中学校ではまだ4校ということですが、これから様々な形で普及していただきたいと期待しております。

17ページの岡田議員の要望内容と重なりますけれども、バス代など児童生徒の輸送料が高騰し、保護者の負担が大きくなっております。こういう施設利用に係る援助はありますが、できれば、それらを拡充していただいて、市内だけでなく広域的な事業として他町村からも参加できるような体制になっていくことで、八戸市のスケート文化が広まっていき、さらには高等学校におけるスピードスケート、ホッケー等の活動につながっていくのではないかなと感じております。特に高校のホッケー競技では、団体種目として単独チームを組めない学校がほとんどになってきています。スピードスケートの選手についても、なかなか学校単位で練習できない状況になっています。このせっきくの小・中学校の取組が高校までつながり、やがては全日本クラスの選手が出てほしいと考えていますので、ぜひ広域的な支援を拡充できればと考えております。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。その他ございませんか。

(武輪委員)

私もYSアリーナについては、これから様々な形で活用してほしいなと期待しているところであります。答弁でも言われておりますが、子どもたちが生涯にわたってスケートに親しみ、そして八戸市民としてスケートを楽しむという文化が復活してほしいなと感じております。

今年YSアリーナができたことによって、各学校ではスケート教室開催について検討しているかと思えます。ある学校では、全校あげてのスケート大会の開催を計画していたところ、小学校2年生以下の貸靴数がとても少なく、児童数分ないことから、1、2年生はスケート大会への参加を断念したという話を聞きました。私もYSアリーナに問い合わせましたら、フィギュアの18cmが9足、19cmは10足、ハーフの18cmが5足、19cmは8足しかないそうです。せっきくYSアリーナができましたが、貸靴が少ないことに少し残念な気持ちを持ちましたので、これから冬休みにもなりますし、教育委員会としても貸靴を増やしてもらおうなど、何かできないかなと感じています。天候に左右されることなく、広いスピードスケートリンクを思い切り滑ることが可能な場所がありますので、全校児童、生徒が参加できるスケート大会を開催できるよう考えてあげられればと思います。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。その他ございませんか。

(油川委員)

私からは二点です。YSアリーナの有効利用についてですが、YSアリーナの活用が期待される八戸圏域8市町村の幼稚園や保育園、認定こども園の幼児施設に対しましても、施設説明会や現場見学会等をお考えいただければ、スムーズに小学校にスケートの良さが伝えられるのかなと思いました。どれだけ活用できるかは見学してみないと分からない部分もありますが、よろしければ計画していただければなと思いました。

あと一点ですが、山名議員、久保議員が質問なさいました「変形労働時間制」について感想を申し上げたいと思います。この変形労働時間制に関しては様々な意見があるかと思えます。中には、持ち帰り残業になってしまうのではないかと、業務が増えるのではないかと懸念の声があるようです。2021年4月から、自治体の判断でこの制度が適用されるとのことですが、この1年間、時間をかけて八戸市の実態に即した望ましい導入の仕方というものをご検討いただけたらと思います、このことが働き方改革、そして問題解決につなげられるように一緒に考えてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。その他ございませんか。

〔質疑なし〕

それでは、よろしければ次に入らせていただきます。

次に、「マイブック推進事業について」及び「ひらく・楽しむ新聞活用事業について」は、どちらも教育指導課からの報告案件になりますので、合わせて事務局からの説明をお願いします。

【マイブック推進事業について】

【「ひらく・楽しむ」新聞活用事業について】

(西山教育指導課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いいたします。

(築瀬委員)

いつもマイブック推進事業について意見を述べているのですが、感想をお話したいと思います。

一つ目は、これまで毎回、ブックセンター、図書館、大学、書店等といった関係各所との連携を深めていただきたいということを申し上げてきました。事業の一環として、昨年度から「出張ブックトーク」が始められ、今年度はさらに活用がなされて、倍増の「出張ブックトーク」が行われているということをお聞きし、大変喜ばしいなと思っております。資料の中の白銀小学校で開催された際の新聞記事を見るにつ

け、子どもたち自らが主体的に取り組むようなブックトークになることが本当に大事なことだと思っており、これまで6年間の効果が、数値とともに子どもたちの姿勢に表れていることがとても嬉しいことだなと思っています。

また、今年度はブッククーポンの紹介ポスターを市内の書店員さんが制作しています。前にもお話ししたのですが、最初は絵や文字が小さいのではないかと思いましたが、実はそれが狙いであり、子どもたちが近寄って読んでくれるデザインを意識していると聞き、柔軟な発想は大切だなと感じました。先ほども話をしましたが、さらに図書館やブックセンターとの連携が進められることに期待を持っています。

二つ目は、今年度の改善点として、特別支援学校用のブッククーポンの作成が挙げられていますが、今後さらに特別支援学校に向けた本事業の取組が課題になるのではないかなと思っています。取組を実施してみると様々な意見等が当然あるわけですね。資料にもあるように、書店さんの声や保護者の声とか様々な難しい問題があると思いますが、学校だけでなく幅広く意見を聞きながら進めていただければと思います。

最後になりますが、先ほど申し上げたポスターの企画制作だけではなく、さらに地元企業との連携を図り、簡単に言えばオール八戸のような形で取り組んでいくことが非常に大事な視点だと思います。事務局においては、いろいろと苦勞があると思いますが、これからも工夫、改善をお願いできればありがたいなと感じております。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。その他ございませんか。

(大庭委員)

築瀬委員からもあったマイブック推進事業について、私もこの事業が定着してきているなと感じております。特にクーポンの使用率向上のために様式変更したり、特別支援学校向けの色の異なるクーポンを作成したり、あるいは出張ブックトークを実施したりと工夫されておりますし、新聞報道等でも取り上げていただき、より身近に感じられる事業になりました。いろいろ改善点等はあると思いますが、より充実し、さらに定着したものになってほしいと感じております。

次に「ひらく・楽しむ新聞活用事業」についてです。資料の2ページ目になりますが、9割以上の小学校で3紙以上の新聞を購読し、中学校においては6割以上の学校が4紙以上を購読しています。私はぎりぎり2～3紙くらいの購読実績かなと想定していましたが、非常にびっくりしました。予想以上に一般紙の購読もされており、小学校では22.9%、中学校は50.9%となっていますので、各学校においても意識が高まっているなと感じました。

この事業は、特に中学生が社会に目を向けていく上で、とても大事な取組だと感じております。学校訪問をしたときには、生徒の活動するスペースなどに様々な工夫をしながら新聞を置いている取組も拝見することができ、とてもありがたく思っております。さらに、新聞社の方が講師となり出前授業を行う「新聞活用出前講座」についても、学校の先生が行う授業と違い、子どもたちは新聞を通していろいろな受け止め方をすると思いますので、これらもありがたいなと思います。

最後に一つ質問になります。資料の9～10ページに、全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査の結果が掲載されています。「新聞を読んでいますか」との質問に対し、「毎日あるいは月1回～3回くらい読む」

と回答した八戸市の小学生と中学生の割合は、全国、青森県と比較して高い数値になっています。しかしながら、「ほとんど又は全く読まない」と回答した割合は、小学校で約52%、中学校で約57%となっており、八戸市では学校に新聞を配置していろんな取組がされていることを考えると、この数値はもう少し減ってもいいのではと思っていました。この辺のギャップについて、気づく点がありましたら教えていただきたいと思います。

(西山教育指導課長)

大庭委員のご質問にお答えします。以前であれば、各家庭で新聞を購読し、スポーツ欄やテレビ欄を見るということはあったと思いますが、最近は新聞を購読する家庭もかなり少なくなっている状況ですので、そういう部分が影響しているのかなと考えています。子どもたちに新聞を手にとってもらいたいということで学校に新聞を配備しているわけですが、なかなか新聞への馴染みが薄いというところも要因としてはあるのではないかなと思います。学校においては授業等での活用だけでなく、何かしらの形で日常的に活用できるよう施策を考え、今後さらに新聞を浸透させていきたいと考えております。

(大庭委員)

家庭内ではなかなか小・中学生が新聞を手にするという機会は少ないと思いますので、「ひらく・楽しむ新聞活用事業」のように、学校で新聞を読む機会が増えていくことは、大変大事なことであると思います。「新聞を読んでいますか」との質問については、家庭での新聞を読む機会であれば、この数字は納得できるのですが、回答の際に学校での新聞を読む機会も入るのであれば、当市の場合は、もう少し高い数値になってほしいのではないかなと。具体的な質問内容が分からないので、一概に判断するのは難しいのは分かっておりますが、期待を込めて質問させていただきました。

(伊藤教育長)

その他ございませんか。

(武輪委員)

私からも感想を述べさせていただきます。始めにマイブック推進事業に関してですが、毎年、昨年度の成果と課題を踏まえて、改善を図りながら事業を進めていただいていることに感謝申し上げます。ご努力のおかげで着実に本の好きな子どもが増えているのではないかと実感しています。また、本を読むのが苦手な子どもも、本に目が向くようになっていくという保護者の声も私の耳に届いておりますので、着実に成果を上げていると思っております。

以前に学校訪問させていただいた学校で「お茶の間読書」という取組を拝見する機会がありました。こちらは週1回行っているそうですが、子どもが保護者に対して自分の好きな本を読み聞かせをしているということなのですが、本によって保護者とのコミュニケーションが図られ、児童の読書への意欲向上に役立っているというところが、とてもいい取組だと思いました。このような家庭における保護者と協力した読書という部分では、まだまだ子どもたちに本を読んでもらうための手立てがあるのではないかなと感じていますし、子どもたちが苦しいことや悲しいことに遭遇した際には、本で出会った何かが助けてくれることにつながっていくと思います。マイブック推進事業の目的の一つとして、保護者と一緒に本を購入す

るということもありますが、そこから一步踏み込んだ家庭での保護者との取組、協力を期待します。これは本だけではなく、新聞活用事業にも言えることかと思いますので、家庭でできることも含めて、もう一步先を期待しております。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。その他ございませんか。

(油川委員)

マイブック推進事業について感想です。こちらについては、適切にPDCAサイクルというものを繰り返しながら、望ましい方向に進んでいるのではないかなと思いました。ありがとうございます。

また、「ひらく・楽しむ新聞活用事業」については、意見を含めた感想を申し上げたいと思います。11ページに「授業への活用・効果などの観点」ということで5項目が記載されています。新聞の内容と授業と関連付けたり、新聞の記事を基に考えを深める機会を設けたり、また、見出しや記事の書き方、割り付けに着目することで、概要の伝え方を学ばせているなど、新聞活用事業の効果が高められていると思いました。学校訪問を通じた教育指導課の地道なご指導と現場の先生方のご努力によるものではないかなと思いました。新聞は文化と教養の基礎を構築してくれる上で、最高の教材であると思っております。このような効果が得られたということを押読いたしまして、大変嬉しく思いました。今後も新聞の活用方法について、学校間での情報交換の機会をたくさん作っていただけたらと思います。

この事業を最大限に生かすために、幼児教育で行っていることのいくつかをご紹介申し上げたいと思います。幼児教育では新聞を活用して「あいうえお、かきくけこ」といった平仮名を50音順に文字探しをしたり、「1～10、1～50」といった数字を年齢に合わせて数字探しをしたりしています。また、新聞に掲載されている写真を見て感想を伝え合う、造形活動においても新聞を使うなど、幼児に対して新聞という存在を分かってもらえるよう、新聞活用事業を意識しながら保育展開をしているところです。皆様の中で幼児教育でこういうやり方があるのではないかというのがありましたら、ご提案いただけたらと思います。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。その他よろしいですか。

[質疑なし]

それでは、次に入りたいと思います

次に、「令和元年度八戸市民大学講座開催報告について」事務局からの説明をお願いします。

【令和元年度八戸市民大学講座開催報告について】

(館合社会教育課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、ご質問などがありましたらお願いいたします。

(武輪委員)

感想を述べさせていただきます。今年度の講師も八戸市に所縁がある方や様々な分野で活躍されている方、全国的にも大変注目されている方など多岐にわたる講師の方々をお呼びし、とても充実した市民大学講座になったかと思います。楽しみにされている市民の方も多いと思いますので、来年度も期待申し上げます。

(伊藤教育長)

その他ございませんか。

[質疑なし]

その他、事務局からの報告事項ありますか。

[なし]

事務局からは以上のようなようです。

最後に、その他ですが、委員の皆様方から何かありますでしょうか。

[なし]

閉 会

(伊藤教育長)

これをもちまして令和元年12月の教育委員会定例会を終了いたします。お疲れ様でした。

(午後2時32分閉会)